

生活保護受給者の支援に向けて

救護施設 岡野福祉会館
業務2課 ケアワーカー

竹内 稔



救護施設をご存知でしょうか。神奈川県内に5施設、全国ではわずかに190施設ほどしかない生活保護を受給している方の生活施設です。各施設で利用者の障害や年齢等は様々ですが、当施設では定員が130名のうち、精神障害の方が8割以上占め、年齢は20歳代から70歳代の方が作業訓練等を行いながら自立を目指しています。

立地条件はとてよく、横浜駅西口から徒歩15分、施設の前には公園があり緑も多く、公園の花壇にはチューリップが咲き、目を楽しませてくれます。

このような施設を支えてくれているのが近隣住民で構成される「泉の友の会」などの方々と、皆様の理解と協力を得て更生施設から救護施設へ転換して今年で10年になります。

当施設は地域交流の一環として毎年8月1日に納涼祭、秋には2年に一度、文化祭を開催しています。それぞれ、隣接する同じ法人の老人ホームと「泉の友の会」、そして町内会との共催で運営し、焼き鳥や焼きそば等を格安な値段で露店を出しています。それ以外にもゲームコーナーやヨーヨー、やぐらを中心に太鼓に合わせて盆踊りを楽しむことが出来ます。今年で8回目の開催となりますが、年々、足を運んでいただける方が増えており、昨年は焼き鳥を1000本以上、焼きそばは400食以上も販売しています。

景気は少しずつ回復しているようですが、人件費の削減、機械の導入により人員削減等で雇用条件がますます厳しくなっていることから、生活保護受給者も年々増加しています。

その中で、地域の方々と交流を持つことにより利用者へ良い刺激となり、社会復帰へ繋がればと考えています。今後も、施設職員として救護施設というあまり知られていない現状をなくすことが出来るよう、努めていきたいと思っています。

④ 神奈川県社協の経営体制及び財政基盤の強化
計画事業を着実に遂行するため、本会の経営体制及び財政基盤

の強化に取り組みます。理事会や評議員会、各種委員会等の機能強化とともに、会員枠の拡大についても引き続き検討をすすめていきます。
また事業財源の安定的確保に向けた検討を行うとともに、時代の要請に柔軟に対応できる事務局体制の再編及び職員の資質向上にも努めていきます。さらに、情報公開の促進による運営の透明性の確保、計画事業の着実な執行に向けた事業評価システムのあり方についても取り組みます。
(企画調整・情報提供担当)
※本活動推進計画の全文は、本会ホームページでご覧いただけます。

計画事業体系図

目標 一人ひとりの主体的な参加による公私協働の福祉コミュニティづくり

○計画推進のための4つの重点項目と計画事業

- 1 だれもが参加でき、ともに支え合う機会づくり
(計画事業)
 - 1 地域福祉の土壌づくりのための意識啓発と福祉教育の推進
 - 2 ボランティア・市民活動に対する各種支援
 - 3 ともしび基金を活用した福祉活動推進の環境整備
 - 4 当事者エンパワーメントの促進と社会参加への支援
 - 5 シニア層の生きがいつくり支援
- 2 生活圏域を基盤とする地域福祉の推進
(計画事業)
 - 6 生活圏域における活動・協働の促進
 - 7 福祉団体・機関、福祉施設等との連携・協働
 - 8 民生委員児童委員との連携・協働
 - 9 保護司との連携・協働
 - 10 市町村社協の活動及び運営への支援
 - 11 災害時における福祉分野の取り組みの推進
- 3 安心して生活できるためのサービスの確保
(計画事業)
 - 12 権利侵害の防止と福祉サービスの利用援助
 - 13 福祉サービスに対する苦情解決の推進
 - 14 社会福祉法人・施設等福祉サービス提供主体への支援と協働
 - 15 福祉サービスの評価活動等の推進
 - 16 福祉人材(専門職等)の確保
 - 17 福祉人材育成のための研修の充実
 - 18 生活福祉資金等による経済的自立への支援
 - 19 日常生活の自立支援に向けた福祉用具等の利用支援
 - 20 福祉関連情報提供機能の強化
- 4 神奈川県社協の経営体制及び財政基盤の強化
(計画事業)
 - 21 経営体制の強化
 - 22 事務局体制の強化
 - 23 安定した事業執行のための財源の確保
 - 24 情報公開・管理体制の確立
 - 25 事業評価システムの構築